

南島原市文化財調査報告書 第25集

# 野中 A 遺跡

—水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手育成型・見岳地区)に伴う発掘調査—

2021

長崎県南島原市教育委員会



南島原市文化財調査報告書 第25集

# 野中 A 遺跡

—水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手育成型・見岳地区)に伴う発掘調査—

2021

長崎県南島原市教育委員会



## 発刊にあたって

本書は県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・見岳地区）に伴い、南島原市教育委員会が実施した野中A遺跡の発掘調査報告書です。

今回の調査では、縄文時代の早期に属する土器が複数出土しました。これは本市において、約一万年前という非常に古い時代から人類が活動していたことを示す貴重な成果です。この成果を今後の歴史教育、研究に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大なご協力をいただきました関係各位ならびに地域の皆様方に心より御礼申し上げます、発刊のあいさつといたします。

令和3年3月31日

南島原市教育委員会  
教育長 永田 良二

## 例 言

- 1 本書は、野中A遺跡（長崎県南島原市西有家町見岳字野中所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・見岳地区）に伴って実施した。
- 3 調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。
- 4 現地調査及び本書作成に係る整理調査の主体及び担当は、以下の通りである。

### 調査主体

南島原市教育委員会	教 育 長	永田 良二（平成26年8月～）
	教 育 次 長	渡部 博（平成27年度～平成28年度）
	同 上	深松 良藏（平成29年度～平成31年度）
	同 上	栗田 一政（令和2年度）
	理 事	宮崎 誠（平成31年度）
	文化財課 課長	松本 慎二（～平成31年度）
	同 上	岡野 博明（令和2年度）
	文化財課文化財班 班長	木村 岳士（～平成29年度）
	同 上	末永 透（平成30年度）
	同 上	鬼塚 俊範（平成31年度）
	同 上	梶原 知治（令和2年度）

### 調査担当

#### 試掘・確認調査

南島原市教育委員会	文化財課文化財班 主 事	大熊 玲奈 （平成27年度～平成28年度）
	同 上 主 事（学芸員）	小川 慶晴（平成31年度）
	同 上 主事補（学芸員）	竹村 南洋（平成31年度）

#### 本調査

南島原市教育委員会	文化財課文化財班 主 事（学芸員）	小川 慶晴
同	同 上 主事補（学芸員）	竹村 南洋

#### 整理報告書作成

南島原市教育委員会	文化財課文化財班 主 事（学芸員）	小川 慶晴
-----------	-------------------	-------

- 5 試掘・確認調査における写真撮影、遺構配置図及び土層実測図の作成は、各調査担当が行った。本調査における写真撮影は、小川、竹村が行った。また、本調査における遺構配置図及び土層実測図の作成、航空写真の撮影は、（株）プロレリックに委託した。
- 6 遺物の実測及び製図は、（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。遺物の写真撮影は、小川が行った。
- 7 本書における遺物・図面・写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室で保管している。
- 8 本書の編集・執筆は、小川による。

# 本文目次

第I章 位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第II章 試掘・確認調査	3
第1節 調査の概要	3
第2節 見岳地区の土層	7
第3節 野中A遺跡における試掘・確認調査の成果	7
(1) 野中A遺跡の土層	7
(2) 野中A遺跡における本調査区の設定	7
第III章 本調査	11
第1節 調査の概要	11
第2節 調査の成果	11
(1) 土層と遺構	11
(2) 出土遺物	22

# 挿図目次

第1図 野中A遺跡位置図 (S=1/1,000,000)	1
第2図 野中A遺跡周辺遺跡位置図 (S=1/50,000)	2
第3図 見岳地区事業計画範囲図 (S=1/7,000)	4
第4図 試掘・範囲確認調査坑配置図(北東側) (S=1/4,000)	5
第5図 試掘・範囲確認調査坑配置図(南西側) (S=1/4,000)	6
第6図 試掘・確認調査坑土層断面実測図① (S=1/40)	8
第7図 試掘・確認調査坑土層断面実測図② (S=1/40)	9
第8図 試掘・確認調査坑土層断面実測図③ (S=1/40)	10
第9図 本調査区位置図 (S=1/1,500)	12
第10図 本調査区グリッド配置図 (S=1/800)	13
第11図 A区土層断面実測図 (S=1/100)	14
第12図 B区土層断面実測図 (S=1/100)	15
第13図 C区土層断面実測図 (S=1/100)	16
第14図 E区土層断面実測図 (S=1/100)	17
第15図 F区土層断面実測図 (S=1/100)	18
第16図 本調査区Ⅵ層上面遺構配置図 (S=1/600)	19
第17図 本調査区Ⅴ層上面遺構配置図 (S=1/600)	20
第18図 本調査区Ⅳ層上面遺構配置図 (S=1/600)	21
第19図 出土土器実測図① (S=1/3)	23
第20図 出土土器実測図② (S=1/3)	24

第21図	出土石器・金属器実測図① (S=2/3) .....	25
第22図	出土石器・金属器実測図② (8~13 : S=1/3、14 : S=2/3) .....	26

## 表 目 次

第1表	見岳地区試掘・確認調査履歴一覧表 .....	3
第2表	出土土器観察表 .....	25
第3表	出土石器観察表 .....	27
第4表	出土金属器観察表 .....	27

## 図 版 目 次

図版1	遺跡上空から高岩山を望む(南から) .....	31
図版2	遺跡上空から有明海を望む(北から) .....	32
図版3	本調査区全体俯瞰写真(写真上が北) .....	33
図版4	A区北側西壁 .....	34
	B区南側西壁 .....	34
図版5	E区南側北壁 .....	35
	F区南側西壁 .....	35
図版6	A区北側完掘状況 .....	36
	B区完掘状況 .....	36
	C区西側倒木痕検出状況 .....	36
図版7	C区西側完掘状況 .....	37
	D区南側完掘状況 .....	37
	E区北側完掘状況 .....	37
図版8	F区完掘状況 .....	38
	F区南側倒木痕完掘状況 .....	38
	G区完掘状況 .....	38
図版9	土器出土状況① .....	39
	土器出土状況② .....	39
	土器出土状況③ .....	39
図版10	石器出土状況① .....	40
	石器出土状況② .....	40
	石器出土状況③ .....	40
図版11	表土剥ぎ状況 .....	41
	作業状況① .....	41
	作業状況② .....	41
図版12	出土土器① .....	42
図版13	出土土器② .....	43
図版14	出土石器・金属器 .....	44

# 第I章 位置と環境

## 第1節 地理的環境

野中A遺跡は、長崎県南東部の島原半島に位置する。島原半島は、長崎県の県央地域から南東に突き出す胃袋状の半島である。半島の中心には、主峰の平成新山（標高1,483m）を始めとした雲仙山系の山々が連なり、それらの火山活動によって形成された火山性堆積物が半島南部域を除く殆どの地域を覆っている。半島は、北西部の愛野地峡を境に県央地域と連結しており、東岸は有明海、西岸は橘湾と面している。また、南岸は早崎瀬戸を挟んで天草諸島と対峙する。

野中A遺跡が所在する西有家町は、島原半島の東側に位置する。平成18年の市町村合併を経て南島原市となり、現在に至る。町の北部には雲仙山系の一つである高岩山（標高881m）がそびえ、古くは山岳信仰、修験の場として知られていた。山頂には高岩神社の本社が鎮座しており、農耕の神である保食神（ウケモチノカミ）を祀っている。また、町内の南山麓は有明海まで傾斜地であり、雲仙山系を水源とする有家川、須川川、龍石川といった河川によって平野部が形成される。

見岳地区は、有家川と見岳川に挟まれた緩斜面の農業地帯であり、段々畑や棚田が広がる。コマやジャガイモ、タバコ等が作られており、一部畜産も行われる。

### <参考文献>

西有家町郷土史編さん委員会編 1998 「西有家町郷土史」 西有家町



第1図 野中A遺跡位置図 (S=1/1,000,000)

## 第2節 歴史的環境

野中A遺跡が所在する西有家町内の遺跡を概観する。縄文時代後・晩期主体の遺跡として、風呂川遺跡がある。深鉢、浅鉢、打製石斧が出土しており、旧石器時代の石器や中世貿易陶磁器等も確認されている。また、慈恩寺跡においても縄文時代後・晩期の遺物が確認されている。

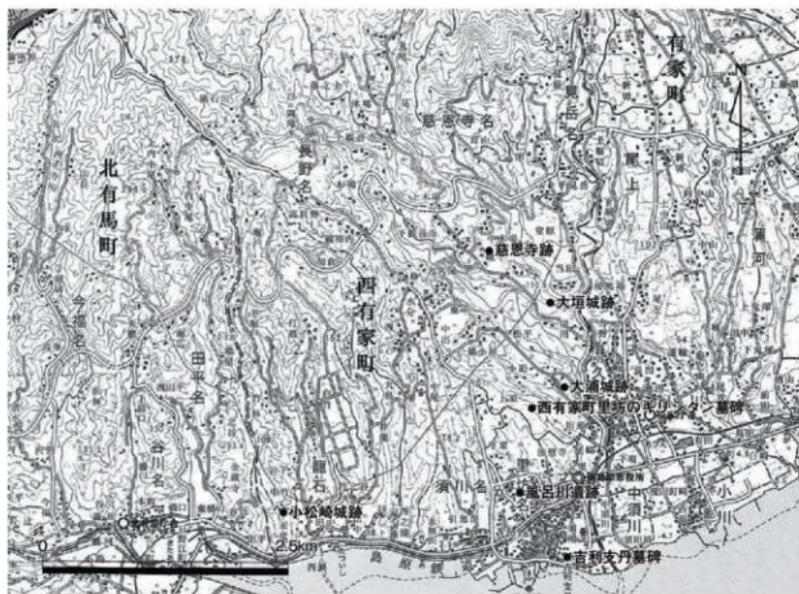
弥生時代から古代にかけては、主体となる遺跡の調査事例が少なく、今後の報告が待たれる。

中世期には大垣城跡、大浦（里坊）城跡、小松崎城跡等の山城が複数築城される。いずれも南北朝期の争乱の中で有馬氏一族によって築城されたとされる。大垣城跡は慈恩寺名の丘陵地帯に位置する。大浦（里坊）城跡は、里坊名の有家川河岸段丘先端部に位置しており、小松崎城跡は龍石名の丘陵地帯に位置する。

また、町内にはキリシタン墓碑が点在している。須川名には国指定史跡に指定された「吉利支丹墓碑」がある。正面小口面には埋葬者名や紀年銘1610年が刻まれている。また、里坊名には「西有家町里坊のキリシタン墓碑」がある。方郭カルワリオの輪郭を平底彫りで表現する特徴的な技法を用いる。

### <参考文献>

- 安楽勉・藤田和祐 1982 『風呂川遺跡』西有家町文化財調査報告書第1集 西有家町教育委員会
- 西有家町郷土史編さん委員会編 1998 『西有家町郷土史』西有家町
- 大石一久編 2012 『日本キリシタン墓碑総覧』南島原市世界遺産地域調査報告書 南島原市教育委員会
- 本多和典 2018 『慈恩寺跡』南島原市文化財調査報告書第14集 南島原市教育委員会



第2図 野中A遺跡周辺遺跡位置図 (S=1/50,000)

## 第Ⅱ章 試掘・確認調査

### 第1節 調査の概要

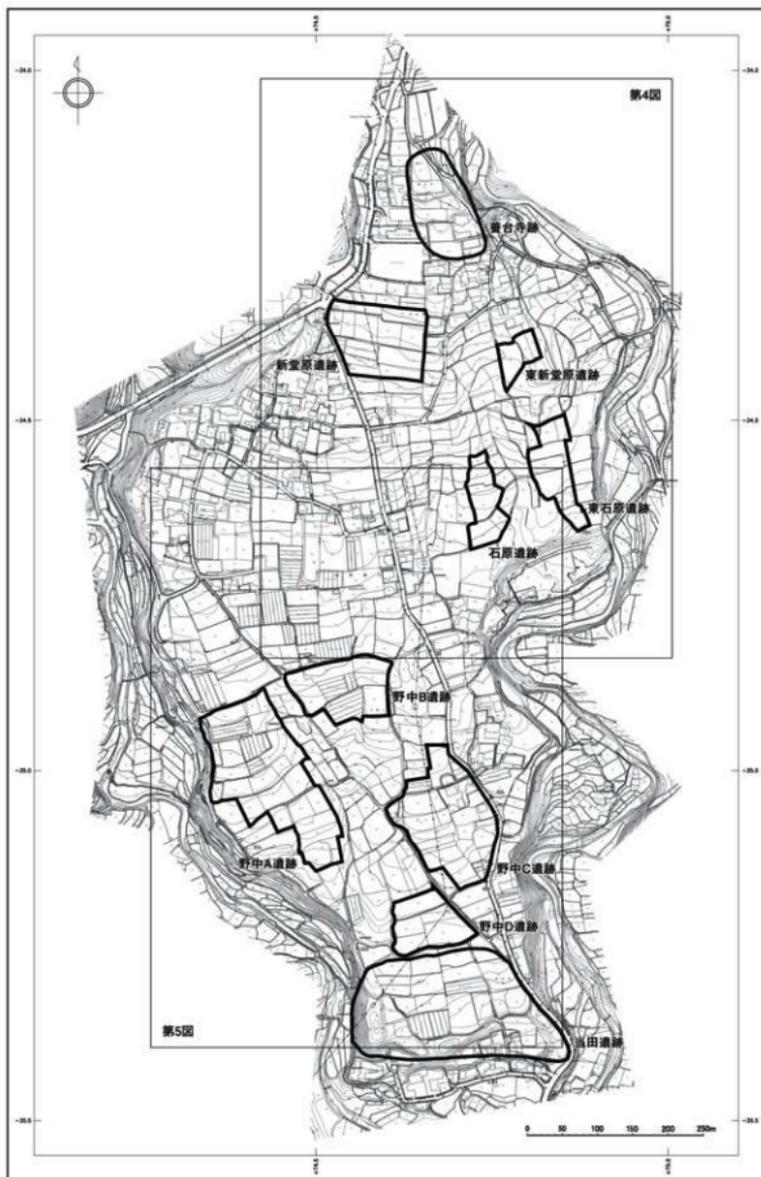
平成25年度、長崎県島原振興局により見岳地区のは場整備事業が計画された。事業範囲が広域にわたり、かつ周知の埋蔵文化財包蔵地である養台寺跡、野中遺跡を含むため、島原振興局との協議の結果、南島原市教育委員会が主体となり平成26年度から平成27年度にかけて試掘・範囲確認調査を実施することになった。その調査結果を受け平成28年度～平成31年度に確認調査を実施した。各年度の調査面積と調査内容は第1表のとおりである。

平成26年度の試掘調査の結果を元に、新規発見の遺跡として新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡を登録した。平成27年度の調査の結果を元に、野中遺跡の範囲縮小を行い、その結果、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の4遺跡に分割した。また、石原遺跡の範囲縮小を行った。平成28年度の調査の結果を元に、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡の範囲縮小を行った。

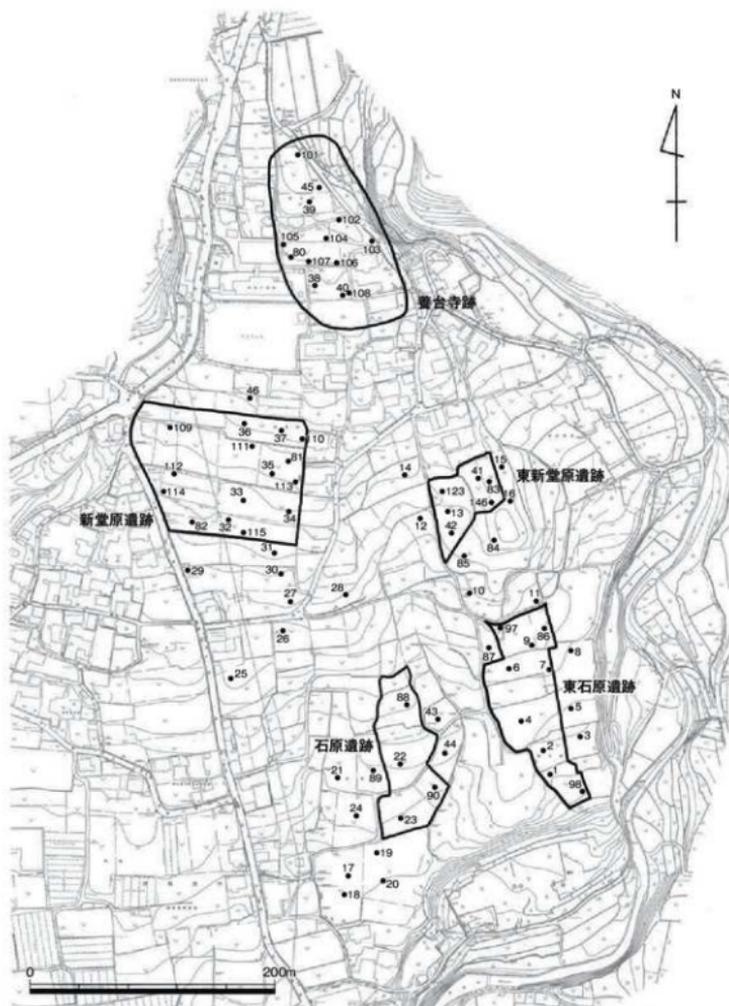
試掘・確認調査の結果、見岳地区は場整備事業計画地内には養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の計9遺跡が所在することになった。

第1表 見岳地区試掘・確認調査履歴一覧表

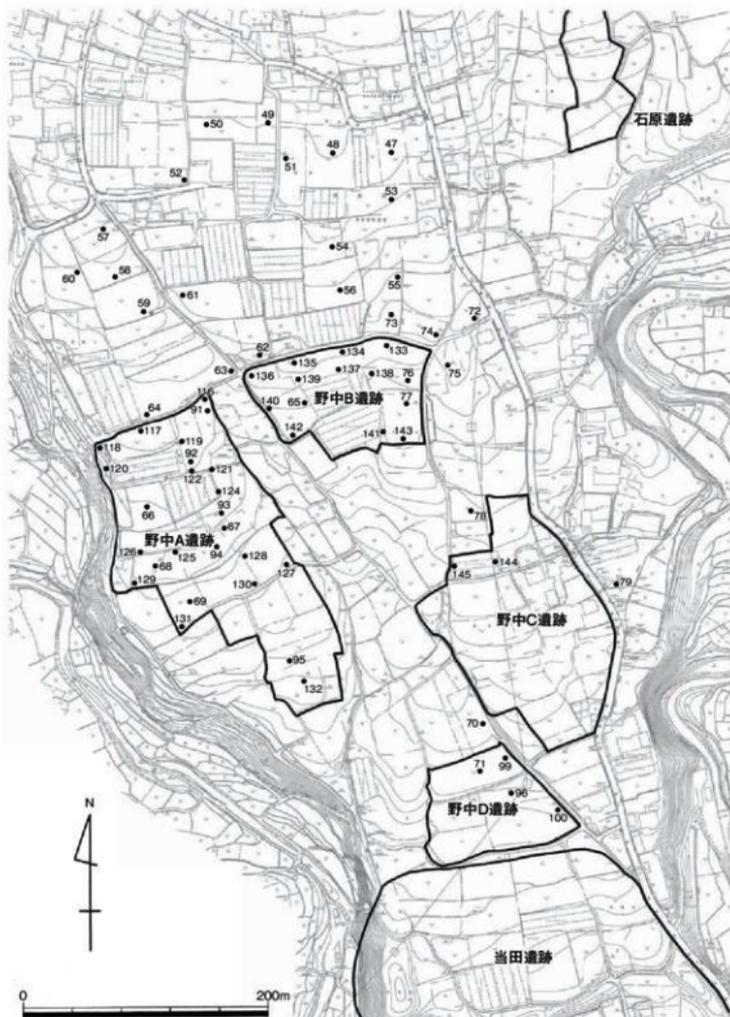
調査年度	調査坑番号	調査面積	調査内容
平成26年度	TP.1～40	160㎡（4㎡の調査坑40箇所）	試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡）
平成27年度	TP.41～79	156㎡（4㎡の調査坑39箇所）	試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、野中遺跡）
平成28年度	TP.80～96	68㎡（4㎡の調査坑17箇所）	範囲確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、野中A遺跡、野中D遺跡）
平成30年度	TP.97～100	16㎡（4㎡の調査坑4箇所）	内容確認調査（東石原遺跡、野中D遺跡）
平成31年度	TP.101～109、111、115～146	168㎡（4㎡の調査坑4箇所）	内容確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡）



第3図 見岳地区事業計画範囲図 (S=1/7,000)



第4図 試掘・確認調査坑配置図（北東側）（S=1/4,000）



第5図 試掘・確認調査坑配置図（南西側）（S=1/4,000）

## 第2節 見岳地区の土層

試掘・確認調査によって得られた見岳地区の基本層序は以下のとおりである。

- I a層 褐色土。耕作土。
- I b層 暗褐色土。表土下の基盤土。
- I c層 近・現代の造成土。
- II層 黒褐色土。中世の遺物包含層。
- III層 黄褐色土。弥生時代中・後期の遺物包含層。
- IV層 暗褐色土。縄文時代後・晩期の遺物包含層。
- V層 黄褐色土。暗褐色土を斑に含む。縄文時代早期の遺物包含層。
- VI層 黒褐色土。縄文時代早期の遺物包含層。
- VII層 明黄褐色土。しまりが強い。
- VIII層 暗褐色土。しまりが強い。
- IX a層 褐色土。粘性が強い。砂粒大のデイスaitを多く含む。
- IX b層 黄褐色土。粘性が強い。10 cm～1 m程度のデイスaitを多く含む。
- IX c層 におい黄褐色土。しまりが非常に強い。
- IX d層 におい黄褐色土。粘性が強い。10 cm～1 m程度のデイスaitを多く含み、地点によって砂礫層となる。

## 第3節 野中A遺跡における試掘・確認調査の成果

### (1) 野中A遺跡の土層

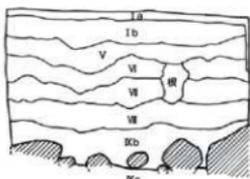
野中A遺跡に係る調査坑番号はTP.66～69、91～95、116～122、124～132の計25箇所である。各調査坑から検出した遺構はいずれも不整形であり、植物攪乱等の自然営為によるものと判断した。遺物は、III層から弥生時代後期、IV層から縄文時代後・晩期、V・VI層から縄文時代早期の土器が出土した。この結果から、野中A遺跡ではIII層～VI層を遺物包含層と判断した。

### (2) 野中A遺跡における本調査区の設定

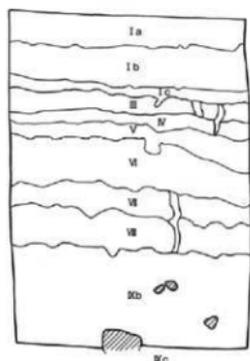
試掘・確認調査の結果を以て高原振興局農林水産部農村整備課と協議を行った。その結果、第9図に示した範囲において本調査が必要であると判断した。

本調査範囲は、水利施設等保全高度化事業第6工区内において、水路及び石積み等の構造物を設置する範囲に設定しており、細いトレンチを組み合わせた形状をしている。また、調査前の状況は耕作地及び荒蕪地であり、牧草やタバコ、ナシ、イチゴ等の栽培が行われていた。

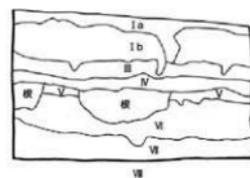
TP.66 東壁 H=105.000m



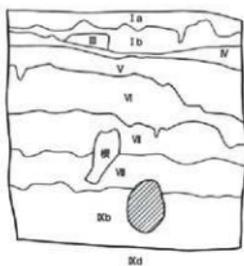
TP.69 東壁 H=101.000m



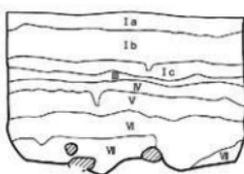
TP.93 東壁 H=104.300m



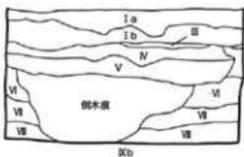
TP.67 東壁 H=103.000m



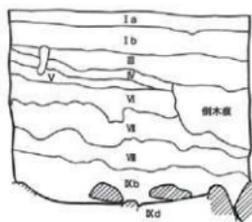
TP.91 東壁 H=106.500m



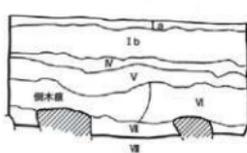
TP.94 東壁 H=103.000m



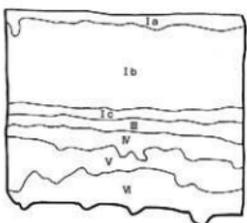
TP.68 東壁 H=103.000m



TP.92 東壁 H=106.500m

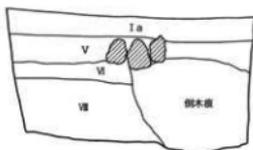


TP.95 東壁 H=97.300m

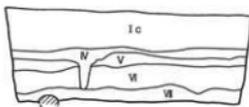


第6図 試掘・確認調査坑土層断面実測図① (S=1/40)

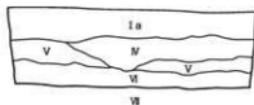
TP.116 東壁 H=106.500m



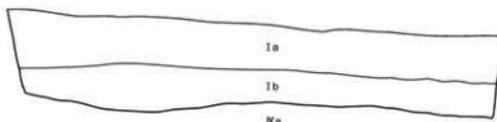
TP.117 南壁 H=107.500m



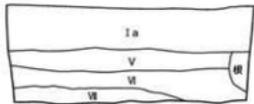
TP.119 東壁 H=106.500m



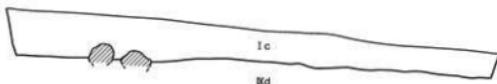
TP.118 東壁 H=115.700m



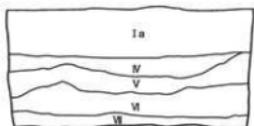
TP.121 東壁 H=105.300m



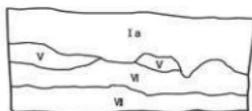
TP.120 東壁 H=103.400m



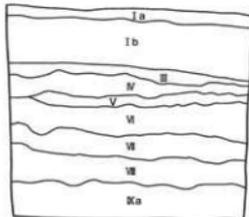
TP.122 東壁 H=106.000m



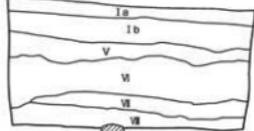
TP.124 東壁 H=104.200m



TP.125 東壁 H=104.000m



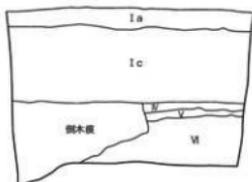
TP.126 東壁 H=103.500m



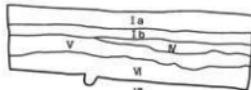
0 2m

第7図 試掘・確認調査坑土層断面実測図② (S=1/40)

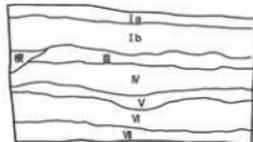
TP.127 東壁 H=99.700m



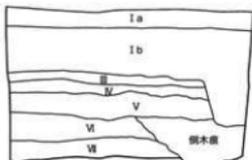
TP.128 東壁 H=100.800m



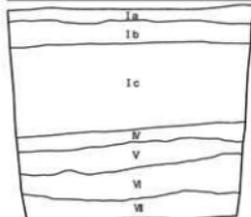
TP.129 東壁 H=101.700m



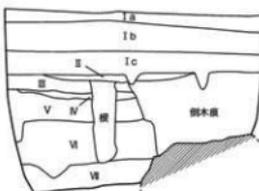
TP.130 東壁 H=100.000m



TP.131 西壁 H=99.500m



TP.132 東壁 H=96.300m



第8図 試掘・確認調査坑土層断面実測図③ (S=1/40)

## 第三章 本調査

### 第1節 調査の概要

試掘・確認調査の成果により、本調査対象となったのは666㎡である。調査は、令和元年10月15日から令和2年2月28日の期間で行った。

調査は、まず世界測地系に則り、4m間隔でのグリッドを設定した。グリッドの範囲は、分割前に野中遺跡として同一の埋蔵文化財包蔵地とされていた野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の4遺跡を網羅する形としている。グリッドの起点は、X = -34828、Y = 74328の地点をA1とし、グリッドの北端から南に向かってアルファベットを、西端から東に向かって算用数字をそれぞれ割り振った。またグリッドの名称についてはグリッド北西隅の交点名称を用いた。また、調査区をAからG区の小調査区に分割し、調査に活用した。

その後、重機によって近・現代の耕作土及び造成土の掘削を行い、調査区内にグリッド杭を設置した。

表土以下の掘削は人力によって、各層位ごとに行なった。遺構の検出作業はⅣ～Ⅶ層の各上面にて行ない、Ⅴ層・Ⅵ層から出土した遺物については出土位置の記録を取った。写真撮影は随時必要に応じて行なった。土層の記録は、各小調査区の壁面において土層実測図を作成した。また、掘削作業が終了した段階でラジコンヘリによる空中写真の撮影を行った。

### 第2節 調査の成果

#### (1) 土層と遺構

本調査で確認された基本層序は以下の通りである。層位名は試掘・確認調査で確認された見岳地区の基本層序と同様である。

I a 層 褐色土。耕作土。

I b 層 暗褐色土。表土下の基盤土。

I c 層 近・現代の造成土。

Ⅲ 層 黄褐色土。弥生時代中・後期の遺物包含層。

Ⅳ 層 暗褐色土。縄文時代後・晩期の遺物包含層。

Ⅴ 層 黄褐色土。暗褐色土を斑に含む。縄文時代早期の遺物包含層。

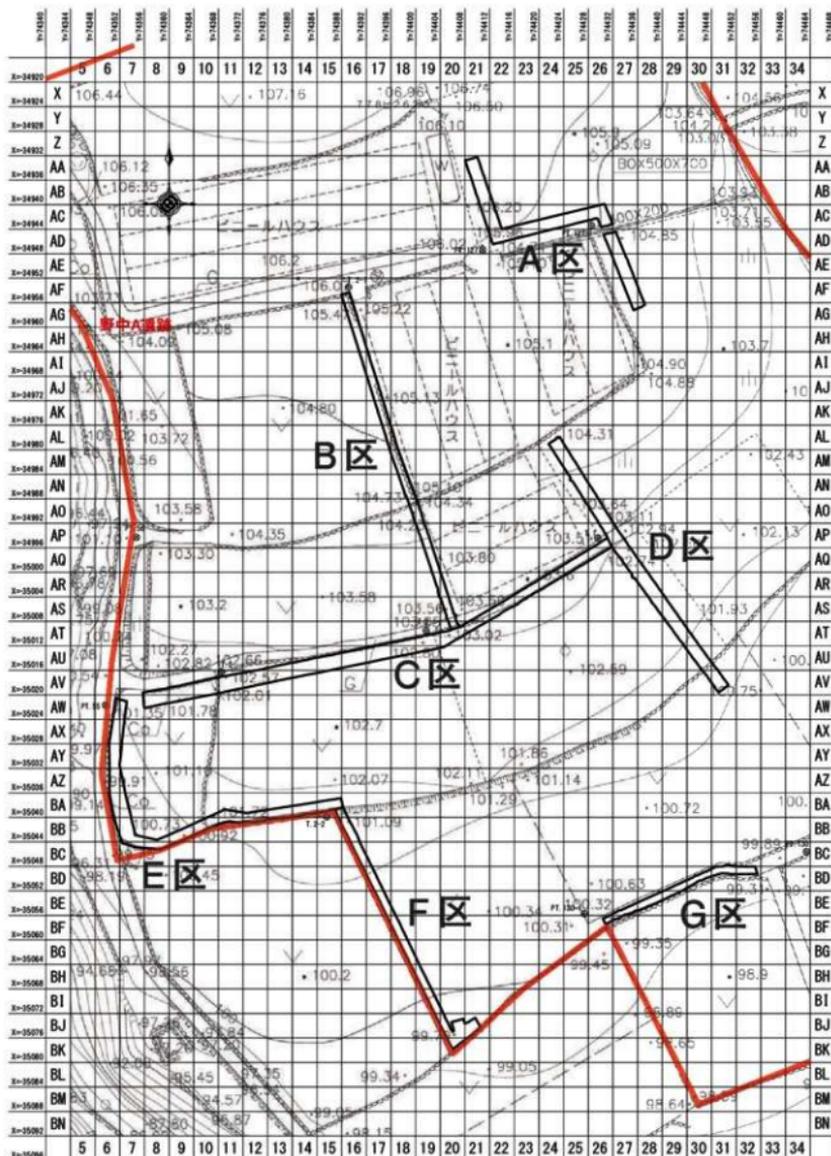
Ⅵ 層 黒褐色土。縄文時代早期の遺物包含層。

Ⅶ 層 明黄褐色土。しまりが強い。

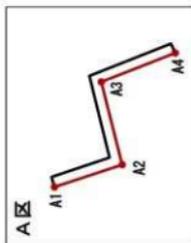
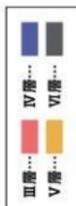
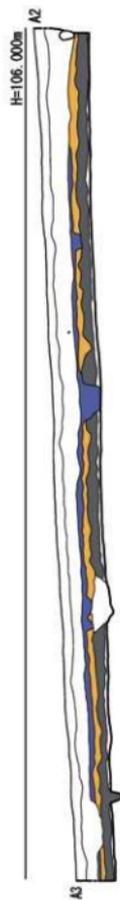
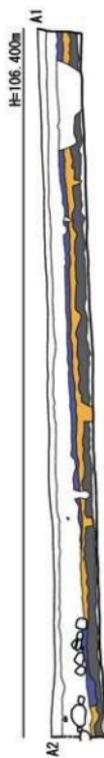
見岳地区基本層序のⅡ層は、今回の調査では確認できず、近・現代の削平により失われたものと考えられる。Ⅲ層、Ⅳ層は調査区全体を通して確認されたが、それぞれ遺物の出土量は僅少であった。Ⅴ層、Ⅵ層では縄文時代早期の土器を確認している。

今回の調査では、検出作業を行った各層位の上面においてピットを検出した。殆どは平面形・断面形ともに不整形であり、植物攪乱等の自然営為によるものと判断した。Ⅴ層上面、Ⅵ層上面では直径3m程度の円形や楕円形の平面プランを複数確認したが、土層断面はいずれも基本層位が横転したような状態であり、いずれも倒木によるものと考えられる。

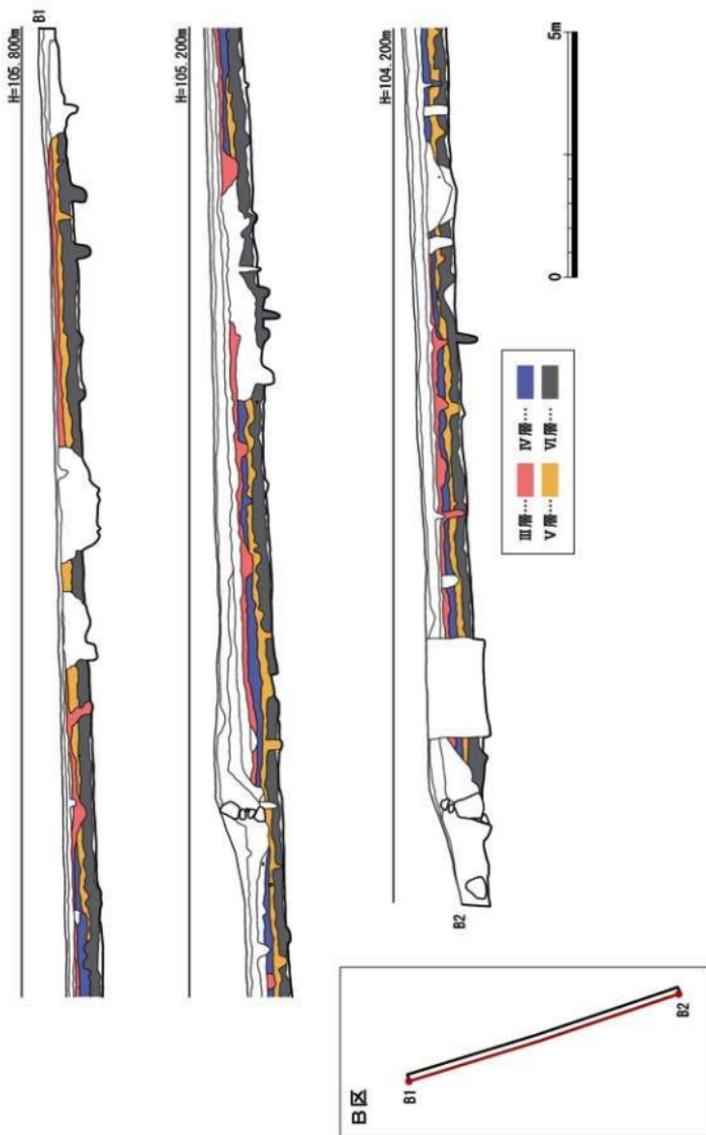




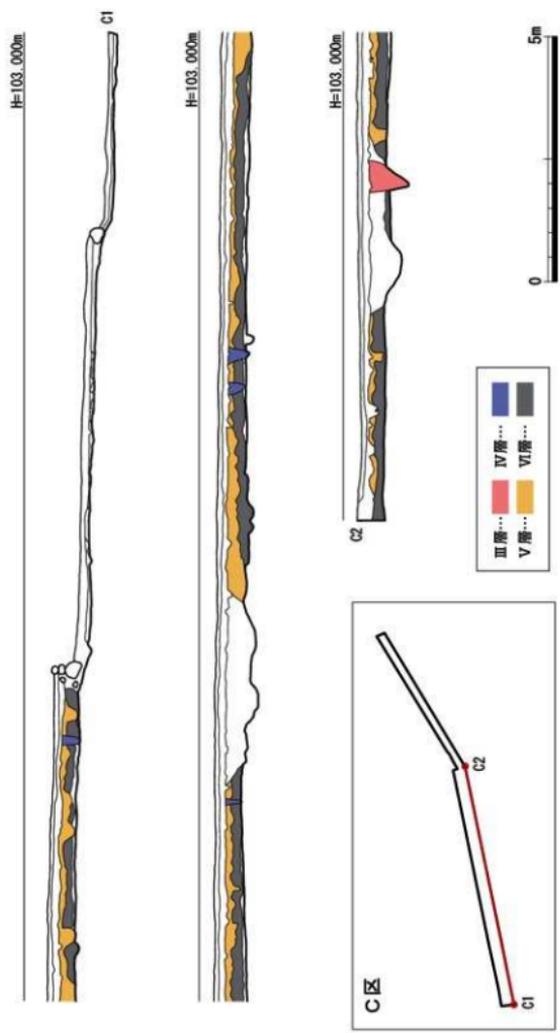
第10図 本調査区グリッド配置図 (S=1/800)



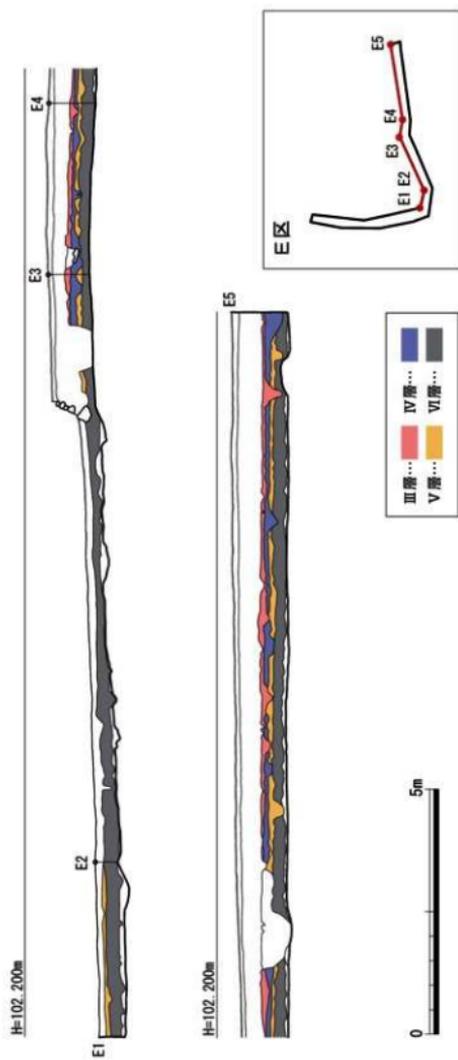
第11图 A区土层断面实测图 (S=1/100)



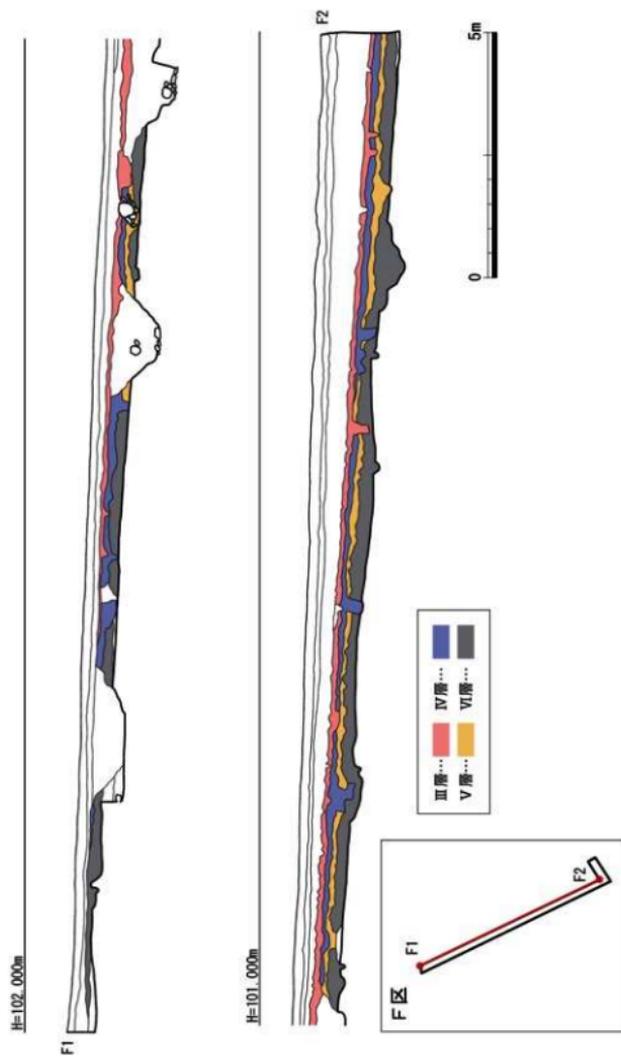
第12图 B区土壤断面类型图 (S=1/100)



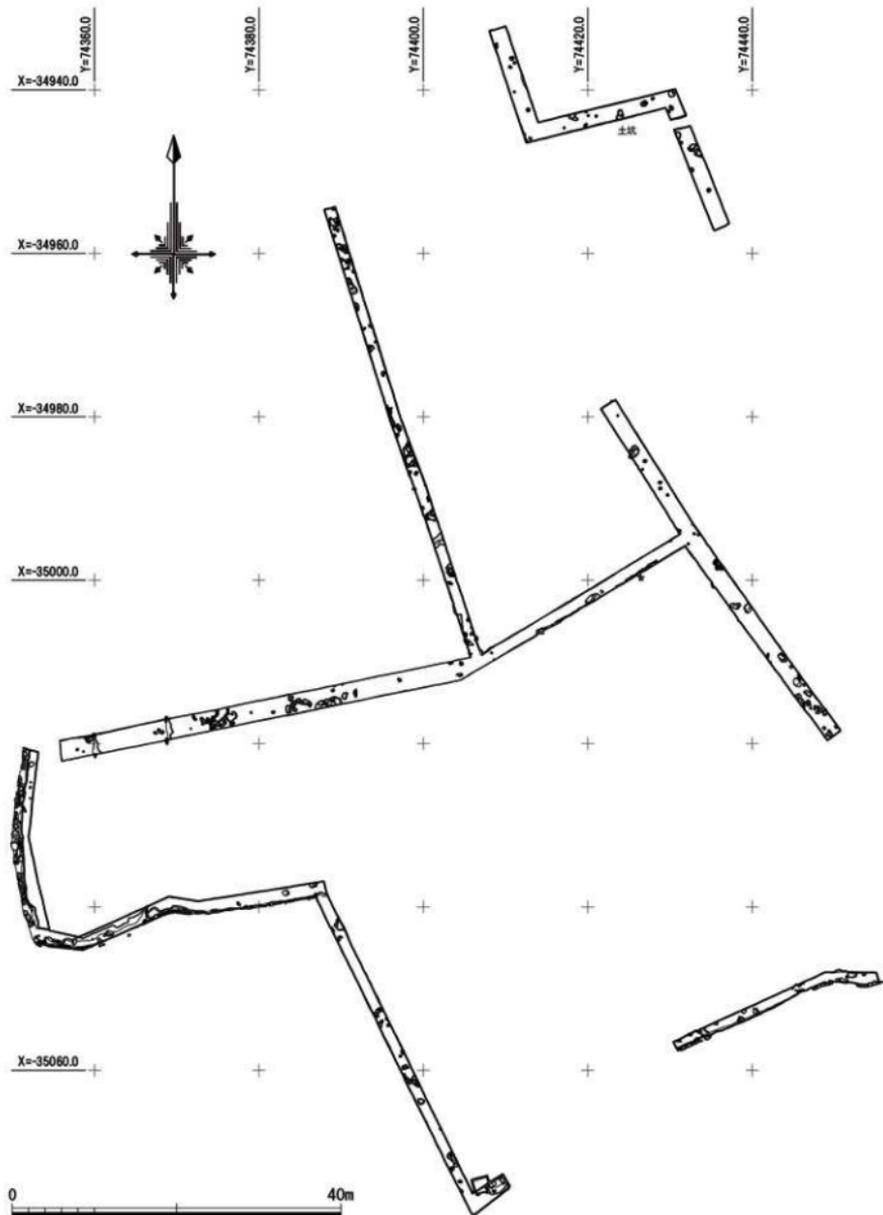
第13图 C区土层断面类型图 (S=1/100)



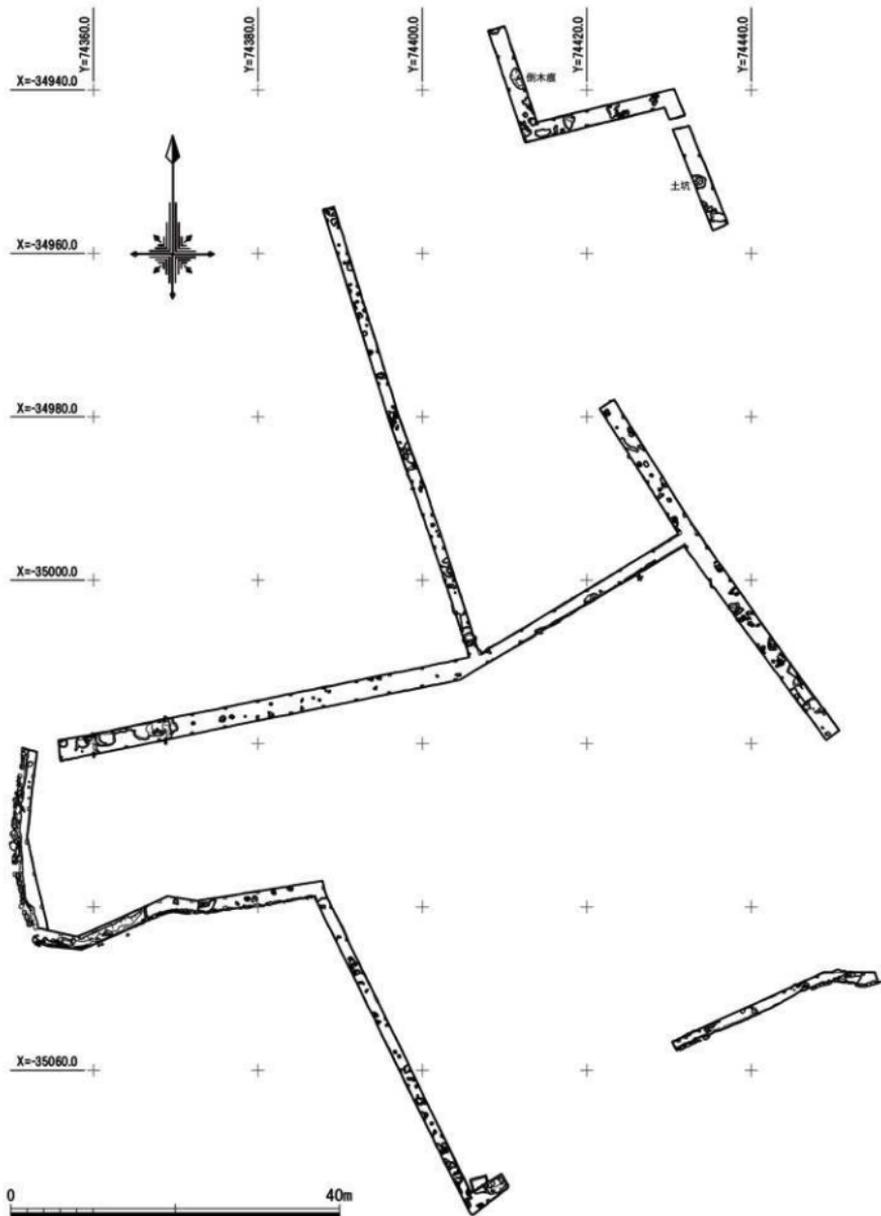
第14图 E区土層断面探测图 (S=1/100)



第15图 F区土层断面实测图 (S=1/100)



第16图 本调查区Ⅵ层上面遺構配置図 (S=1/600)



第17图 本調査区VI層上面遺構配置図 (S=1/600)



## (2) 出土遺物

### 出土土器

1～35は縄文時代早期の土器である。1～4は貝殻腹縁文を有する土器である。1・2は口縁部の資料で、口縁部下に連続する縦位の貝殻腹縁文を施す。3・4は胴部片で、3は条痕を施した後に貝殻腹縁文を入れる。

5～24は円筒形条痕文土器である。5～10は口縁部の資料である。外面に貝殻条痕文を縦方向に施したのち、横方向に施す。5・6・8・10はやや内傾気味で、7・9は直立気味となる。20～24は、弧状の連続した貝殻条痕文を施す資料である。20～23は強いうねりをもった施文を行い、24は緩い弧を描く。

25は外面に小型の楕円押型文を有する胴部片の資料である。26～28は外面に山形押型文を施す。

29は外面に巻貝の殻頂部を用いた条痕を施す。条痕は縦方向に入れる。30は口縁下に連続した刺突文を施す。31・32は貝殻による施文を行う資料である。

33～35は底部の資料で、底部形態はいずれも平底であり、外面はナデ調整を行う。

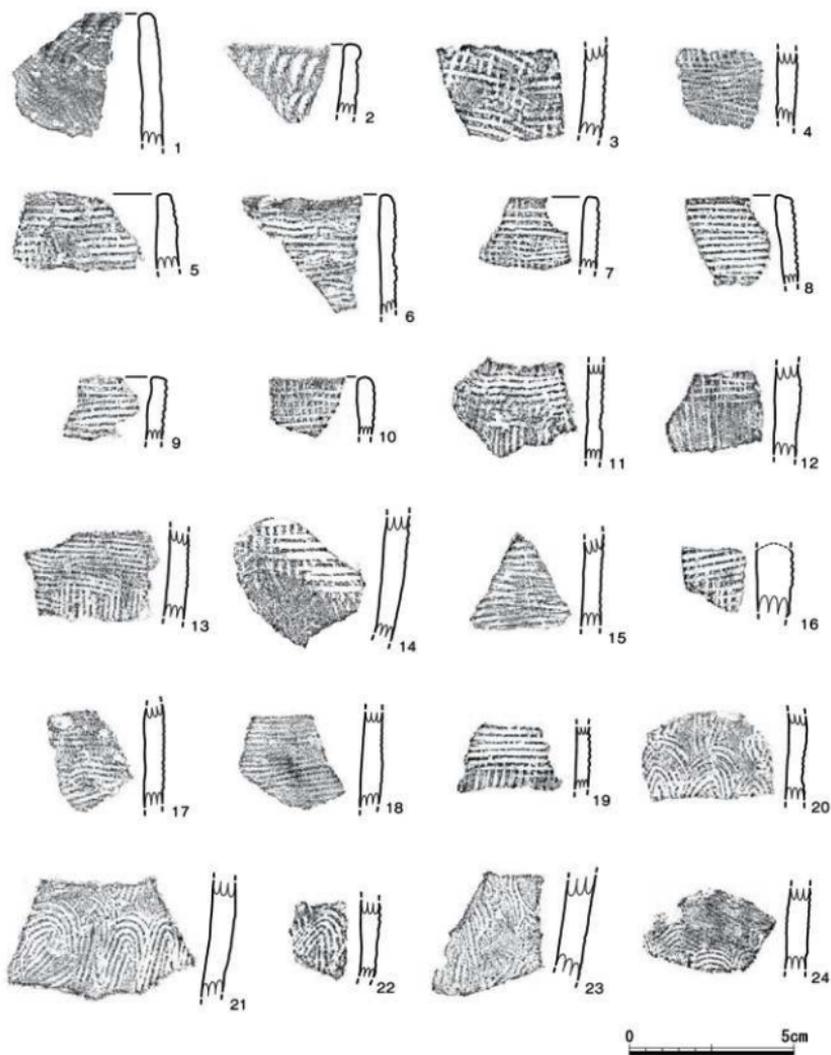
36・37は縄文時代後・晩期の深鉢の資料である。36は外面に縲ネクタイ状突起を有する。

38～40は弥生土器の資料である。38・39は底部の資料である。40は器台の体部である。

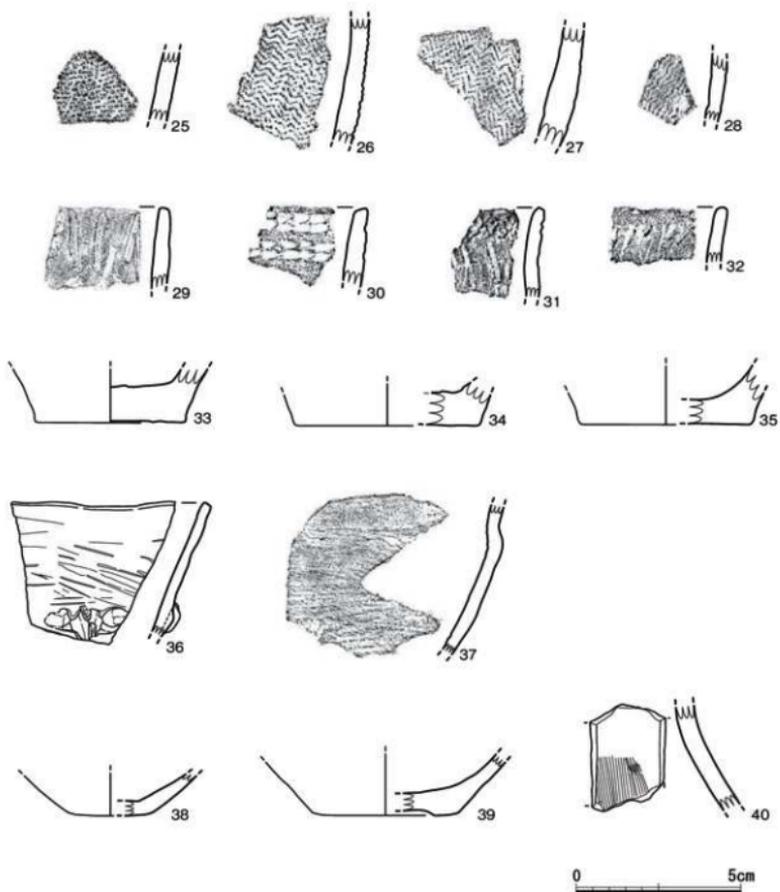
### 出土石器・金属器

1はサヌカイトの石核である。一部自然面を残す。2は黒曜石製のスクレイパーと思われる。3は二次加工が見られる黒曜石製の剥片である。4は頁岩を素材とした剥片で、左縁辺に加工を施している。5は微細な剥離を有するサヌカイト製の剥片である。6・7は灰色黒曜石を用いた剥片で、自然面が残る。

8は蛇紋岩製の磨製石斧である。全面を丁寧に研磨する。9・10は安山岩製の磨製石斧で、10は刃部に使用痕と考えられる剥離がある。11は安山岩製の石錘である。12は安山岩製の磨石で、13は砂岩製の敲石である。13は使用痕が残る。14はD区周辺で表面採集した銅鐵である。



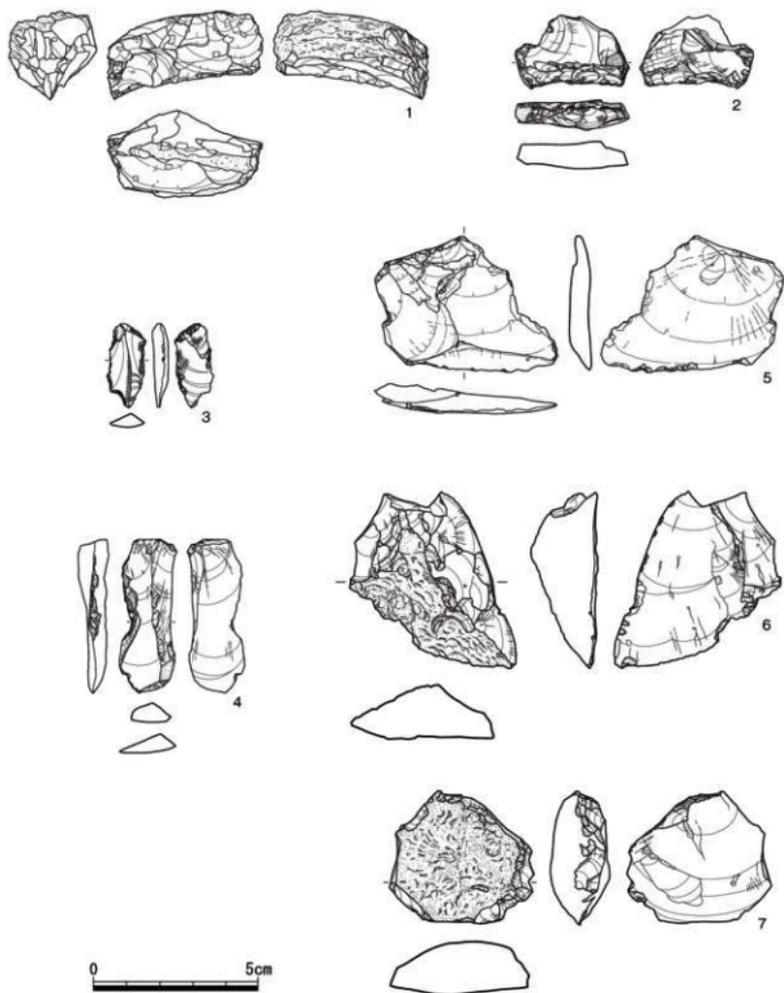
第19图 出土土器实测图① (S=1/3)



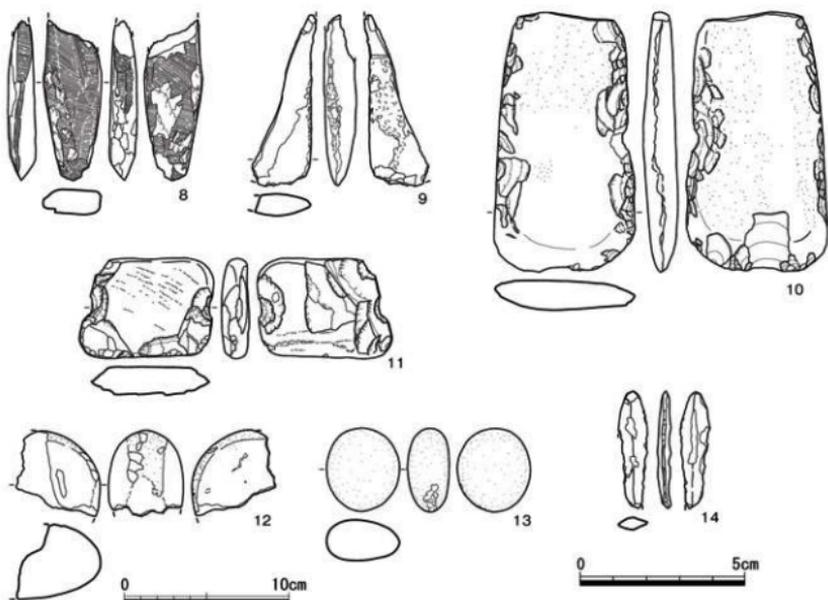
第20图 出土土器实测图② (S=1/3)

第2表 出土土器観察表

番号	器種	区	地点	層位	文様・図案		色調		胎土	備考
					外面	内面	外面	内面		
1	深鉢	B	AN18	IV	貝殻線文・ナツ	ナツ	にぶい橙	にぶい黄橙	長石・石英・赤色粒	
2	深鉢	B	A019	V	貝殻線文・ナツ	ナツ	黒褐色・橙	黒褐色・にぶい橙	角閃石・長石・石英	
3	深鉢	D	AS28	V	貝殻条痕・貝殻線文	ナツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	扉付着
4	深鉢	D	AS28	V	貝殻線文・貝殻条痕	—	焼灰・にぶい橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
5	深鉢	B	AN18	V	貝殻条痕・ナツ	ナツ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	
6	深鉢	A	AD22	V	貝殻条痕・ナツ	研磨	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
7	深鉢	C	AE18	V	貝殻条痕・ナツ	ナツ(原料)	にぶい橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
8	深鉢	A	AD22	V	貝殻条痕・ナツ	ナツ	にぶい橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
9	深鉢	A	AD22	VI	貝殻条痕・ナツ	ナツ	暗褐色	橙	角閃石・長石・石英	
10	深鉢	C	AE17	VI	貝殻条痕・ナツ	ナツ	橙	橙	角閃石・長石・石英	
11	深鉢	D	AT29	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
12	深鉢	A	AC24	VI	貝殻条痕	ナツ	にぶい黄橙	にぶい黄褐色	長石・石英・赤色粒	
13	深鉢	C	AE18	V	貝殻条痕	ナツ	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
14	深鉢	A	AC24	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	扉付着
15	深鉢	B	AL17	VI	貝殻条痕	ナツ	浅黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒	
16	深鉢	B	AJ17	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい黄橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
17	深鉢	D	AS28	V	貝殻条痕	—	橙	浅黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒	
18	深鉢	B	AQ19	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい黄橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
19	深鉢	A	AD22	V	貝殻条痕	ナツ	橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英	
20	深鉢	A	AC26	V	貝殻条痕	ナツ	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
21	深鉢	A	AC23	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
22	深鉢	A	AD23	V	貝殻条痕	ナツ	にぶい橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
23	深鉢	A	AC22	V	貝殻条痕	ナツ	橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
24	深鉢	B	AQ19	III	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
25	深鉢	B	A117	VI	押型文	ナツ	橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
26	深鉢	B	A019	V	押型文	ナツ	にぶい橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英	
27	深鉢	B	AK17	V	押型文	—	浅黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒	
28	深鉢	B	AN18	V	押型文	ナツ	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
29	深鉢	B	AM18	IV	貝殻条痕・ナツ	貝殻条痕・ナツ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	扉付着
30	深鉢	C	AE16	VI	刺突文・ナツ	ナツ	にぶい赤褐色	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	穿孔1ヶ所残
31	深鉢	B	AM18	IV	ナツ・貝殻条痕	ナツ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
32	深鉢	B	AM18	V	ナツ・貝殻条痕	ナツ	暗褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
33	深鉢	B	AP19	VI	刺突文・ナツ	ナツ	にぶい橙	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
34	深鉢	B	AP19	VI	ナツ	—	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英	
35	深鉢	A	AA21	V	ナツ	ナツ	にぶい橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒	
36	深鉢	B	AN18	III	貝殻条痕・ナツ	ナツ	焼灰	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	継ぎ目状突起
37	深鉢	F	BD16	III	貝殻条痕後ナツ	貝殻条痕後ナツ	にぶい橙	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・褐色粒	扉付着
38	浅鉢	B	AQ19	III	ナツ	ナツ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒	
39	浅鉢	F	BD18	III	ナツ	ナツ	にぶい橙	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
40	胎台	B	AN18	III	—	ナツ・ハケメ	橙	橙	角閃石・長石・石英	



第21图 出土石器·金属器实测图① (S=2/3)



第22図 出土石器・金属器実測図② (8~13 : S=1/3、14 : S=2/3)

第3表 出土石器観察表

番号	種類	石材	区	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	石核	サヌカイト	E	BA11	VI	4.1	7.1	4.0	94.9	
2	スタレイバー	黒曜石	F	—	表採	3.4	5.2	1.3	21.7	灰色黒曜石
3	二次加工剥片	黒曜石	C	AT18	VI	3.9	1.8	0.7	3.9	漆黒色黒曜石
4	二次加工剥片	頁岩	F	BB20	III	7.0	2.6	1.4	21.2	
5	微細剥離剥片	サヌカイト	G	BB01	造成土	6.3	8.3	1.4	47.9	
6	剥片	黒曜石	C	AI19	VI	5.4	5.0	2.0	35.6	灰色黒曜石
7	剥片	黒曜石	A	AC23	V	4.1	4.4	1.8	30.9	灰色黒曜石
8	磨製石斧	蛇紋岩	E	AV12	III	9.8	3.5	1.6	74.4	
9	磨製石斧	安山岩	D	AP26	VI	10.5	3.8	2.0	60.0	
10	磨製石斧	安山岩	G	BB30	I	15.9	8.5	2.1	397.3	
11	石錘	安山岩	D	AB28	IV	6.2	8.2	1.7	120.4	
12	磨石	安山岩	D	AT29	V	5.2	5.1	4.5	123.4	
13	磨石	砂岩	G	BB01	造成土	5.1	4.4	2.5	78.2	

第4表 出土金属器観察表

番号	種類	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
14	銅鏃	表採	3.6	0.9	0.4	8.0



## 圖 版





遺跡上空から高岩山を望む（南から）



遺跡上空から有明海を望む（北から）



本調査区全体俯瞰写真（写真上が北）



A区北侧西壁



B区南侧西壁



E 区南侧北壁



F 区南侧西壁

图版6



A区北侧完掘状况



B区完掘状况



C区西侧倒木痕检出状况



C区西侧完掘状况



D区南侧完掘状况



E区北侧完掘状况

图版8



F区完掘状况



F区南侧倒木痕完掘状况



G区完掘状况



土器出土状况①



土器出土状况②



土器出土状况③



石器出土状况①



石器出土状况②



石器出土状况③



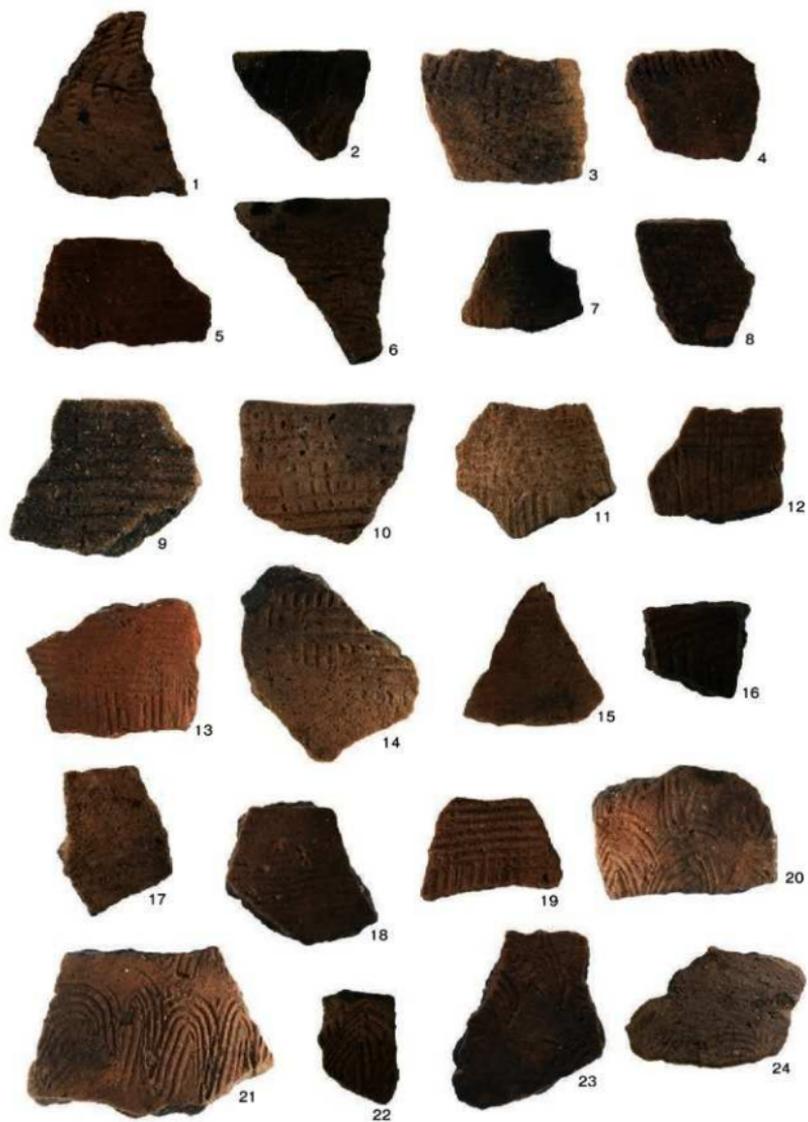
表土剥ぎ状況



作業状況①



作業状況②



出土土器①



出土土器②



出土石器·金属器

## 報告書抄録

ふりがな	のなかAいせき							
書名	野中A遺跡							
副書名	水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・見岳地区）に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編著者名	小川 慶晴							
編集機関	南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のなか いせき 野中A遺跡	みなみし じまばらし 南島原市 にしありまちょう 西有家町	42214	050	32° 40' 54"	130° 17' 37"	191015 ～ 200228	666 m <sup>2</sup>	農業基盤 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
野中A遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代				縄文土器 弥生土器 磨製石斧		

南島原市文化財調査報告書 第25集

## 野中 A 遺跡

2021. 3. 31

発行 長崎県南島原市教育委員会  
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷 カキモト印刷